

かめのり大学院留学アジア奨学生
月次報告レポート
(2020年10月)

以下本文。

1. 研究の進捗状況について

現在ほぼすべての結果がまとめましたので、残っているのは執筆に集中して、分かりやすくアイデアを表現しようとするだけです。私の最新の結果は、複雑な製品を扱う企業は FDI を通じて生産を内部化する可能性が高く、技術力が弱い企業や模倣のリスクが低い商品を生産している企業はライセンスを好むことである。知的財産権の保護レベルの違いは、市場参入の選択肢に影響を与えます。具体的には、直接投資からライセンスへの変更です。

市場参入の選択肢は、会社の所有権の利点、市場の場所の利点、および会社内のトランザクションを統合することから生じる内部化の利点に依存します。所有権の優位性が低い企業は、海外市場に参入しないか、輸出などのリスクの低い戦略を使用します。輸出を通じて、企業は売上を拡大し、FDI と比較してリスクを最小限に抑え、生産における規模の経済の使用を実装することができます。ライセンスを取得すると、企業はその主要な能力に特化し、他の企業から学ぶことができます。このモードで発生するリスクは、輸出で発生するリスクよりも高くなります。

先月またライセンスのデータを得ましたので、それを総合して今月分析しようと思っています。これで新しい結果ができたなら知的財産権の保護の必要性をより明確にすることができます。

2. 生活状況について

先月一番生活が変わったのは、アマゾンの Kindle Unlimited という電子書籍読み放題サービスを購入しました。日本語の本は全て日本に置いてしまい、久しぶりに日本語を読まないで、これを利用することにより色々な新しい本の出会いができました。その中、一番良かった本は「コンサルタントの読書術」になります。この本を読んで読んだ知識をどうやって活かせるのかについて書かれています。何冊か通読したのになにも頭に残らないのは、ウロウロ読んでいたせいだと気づきました。本の種類により得られるものや使い方が異なるし、本当に情報を得たい時は同じテーマの本を10冊集中して読み、また本の9割が無駄ということ意識しながら読むことという読み方を学びました。一言でまとめると、フォーカス不足で本を読むのは結果とつながらないし、成果から逆算する大事さを教えてくれた一冊です。

以上。